

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 1 区分

【発行日】平成20年10月23日(2008.10.23)

【公開番号】特開2006-307822(P2006-307822A)

【公開日】平成18年11月9日(2006.11.9)

【年通号数】公開・登録公報2006-044

【出願番号】特願2005-168832(P2005-168832)

【国際特許分類】

F 0 3 G 3/00 (2006.01)

【F I】

F 0 3 G 3/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成20年7月29日(2008.7.29)

【手続補正 2】

【補正対象書類名】手続補正書

【補正対象項目名】手続補正 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(図 2) の様に大径ロール (1) の支点は発電機 (10) のプーリ (5) と大径ロールの始動時補助モータ (8) で回すサポートロール (6) の 2 つによって、より大きなテコの原理による重力差を得るため、大径ロールの一方の辺の内と外から支える。又大径ロールが安定的に回転する様に、溝 (2) にプーリ及びサポートロールがはまり込む。

【請求項 2】

(図 2) の様に大径ロールの溝 (2) に、大径ロールの中心線に対して、ある角度をもって一定方向に液体 (4) を入れた筒型羽根 (3) を固着する。

【請求項 3】

(図 2) の様に固着した数枚の筒型羽根 (3) のうち、水平の中心線近くにきた支点の左右 2 枚の筒型羽根の内部の液体 (4) が、筒型羽根の傾斜に沿って右から左に移動し、支点に対して左右の液体の重力にテコの原理で、トータル的に大きな重力差が生じ、それが大径ロール (1) に連続的に反時計方向の回転力を生み、プーリ (5) 及び発電機 (10) を回し発電する。

【請求項 4】

発電機 (10) の回転は大径ロール (1) との回転比によるが、大径ロールの回転は大径ロールの直径及び筒型羽根 (3) の全長と、液量 (4) によって調整する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】手続補正書

【補正対象項目名】手続補正 2

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4】

【補正対象書類名】手続補正書

【補正対象項目名】手続補正 3

【補正方法】削除

【補正の内容】